

「和き合い愛塾」in ささぐり

福岡県立社会教育総合センター

1 趣 旨

職業的自立をめざす知的障害のある生徒を対象に、多様な自然体験活動や就労体験活動、交流プログラム等を提供し、「生きる力」を育むとともに、個々の進路実現に繋ぐ力を養う。また、保護者を対象に、職業的自立に向けた家庭や地域における支援の在り方等について研修を実施する。

2 対象者

特別支援学校（知的障害養護学校）の高等部（1・2年）に在籍し、職業的自立をめざす生徒25名程度

3 日 程

第1回 平成20年 6月 7日（土）～ 8日（日）1泊2日
第2回 平成20年 8月 19日（火）～ 24日（日）5泊6日
第3回 平成20年 11月 7日（金）～ 9日（日）2泊3日
第4回 平成20年 12月 13日（土）～ 14日（日）1泊2日

本年度は年間4回シリーズのキャンプを計画した。事前にアンケート調査を実施し、参加者の障害の種類や必要な配慮事項についての把握を行った。4回のキャンプでは毎回のテーマを明確にし、年間を通して発展性のあるプログラム作りに努めた。特に、「身辺自立」「協調性」「働く意欲」「働く体力」など、働くにあたって必要な力を高めていくことを主なねらいとした多様な体験プログラムを企画した。また、「職業的自立」を図るうえで保護者の支援が重要であるとの認識を深めるため、講師を招聘して保護者座談会を毎回設定した。

（1）第1回「フレンドシップキャンプ」

参加者	事業対象者	49名（うち保護者25名）
	ボランティア	19名

ア 全体の計画

【6月7日（土）】

・ボランティア事前研修 ・準備	受付	開塾式	【出会いのつどい】 ～交流ゲーム～	【アウトドアクッキング】 ～みんなで楽しく 野外調理～	【オリジナルアート】 ～自分で選んで創作活動～	入浴	就寝
--------------------	----	-----	----------------------	-----------------------------------	----------------------------	----	----

【6月8日（日）】

起床	つづい	【フィールドトレッキング】 ～フォトマップハイキング～ (朝食)	昼食	ふりかえり 保護者座談会	合い愛発表会	閉塾式	・ボランティア反省会
----	-----	--	----	-----------------	--------	-----	------------

「仲間づくり」をキャンプのテーマとし、「野外調理」では生活技能の向上、「ハイキング」では体力の向上、「発表会」ではコミュニケーション力の向上というよう

に一つ一つの体験活動にもねらいを設定し、「職業的自立」に向けた力の育成を図った。また、次回実施する職場実習に向けた実態把握の場としても位置づけ、身体状況や就労の適性把握などを行った。

イ 主な活動状況

<アウトドアクッキング>

活動の概要

- ・メニューは「ご飯」「豚汁」「卵料理」「デザート」とし、班で協力して野外調理を行う。

参加者の様子

- ・出会ってすぐの活動であったが、ボランティアの積極的な関わりによって参加者同士も徐々に打ち解け、自分で作った料理を食べるときには満足そうな様子が見られた。

配慮事項・支援体制

- ・活動の内容や流れを伝える際には、言葉だけでなく絵や図で示したり手本を見せたりしながら理解させた。
- ・一人一人好きな卵料理を作るという自己選択の場を位置付けた。
- ・各班（6名程度）に3名のボランティアを配置し、安全面に配慮した。

<オリジナルアート>

活動の概要

- ・キャンプの記念写真を飾るための写真立てを作り、様々な材料から自分の好みに合った材料を選んで装飾しながらオリジナルの作品に仕上げる。

参加者の様子

- ・夜の活動のため参加者に疲れが見え始め集中力にも差が出てきたが、最後まで投げ出すことなく全員作品を完成させることができた。

配慮事項・支援体制

- ・参加者の発想を妨げない程度の見本を提示し、作品のイメージを持たせた。

<フィールドトレッキング>

活動の概要

- ・写真を頼りに、グループごとにハイキングコースをめぐる「フォトラリー」に挑戦する。

参加者の様子

- ・体力的な個人差が激しく途中であきらめそうになる参加者もいたが、お互いに励まし合いながら歩き通し、一緒にゴールできたことを喜ぶ姿が印象的であった。



配慮事項・支援体制

- ・班付ボランティア以外にも班毎に職員を配置し、安全面へ配慮した。

(2) 第2回「グリートワークキャンプ」

参加者	事業対象者	41名(うち保護者18名)
	ボランティア	9名

ア 全体の計画

【8月19日(火)】

・ボランティア事前研修 ・準備			受付	開塾式	ゲ交流会	【みんなで 楽しもう】 ～スポーツ～	つタ入 ど食浴 い	班活 動	振 返 り	就 寝
--------------------	--	--	----	-----	------	--------------------------	-----------------	---------	-------------	--------

【8月20日(水)】

起	つ	朝	【ささぐりハイキング】 ～職場実習の下見に行こう～	昼	食	【職場体験事前学習】 ～働くための準備をしよう～	つタ入 ど食浴 い	班活 動	振 返 り	就 寝
---	---	---	------------------------------	---	---	-----------------------------	-----------------	---------	-------------	--------

【8月21日(木)】

起	つ	朝	【地元企業での職場実習】 ～仕事をおぼえよう～	昼	食	【オリジナルアート】 ～涼しい風ふくうちわ作り～	つタ入 ど食浴 い	班活 動	振 返 り	就 寝
---	---	---	----------------------------	---	---	-----------------------------	-----------------	---------	-------------	--------

【8月22日(金)】

起	つ	朝	【地元企業での職場実習】 ～自分の力を ためしてみよう！～	昼	食	【地元企業での職場実習】 ～自分の力を ためしてみよう！～	つタ入 ど食浴 い	班活 動	振 返 り	就 寝
---	---	---	-------------------------------------	---	---	-------------------------------------	-----------------	---------	-------------	--------

【8月23日(土)】

起	つ	朝	【地元企業での職場実習】 ～プロの仕事をめざして！～	昼	食	【アウトドアクッキング】 ～バーベキューパーティー～	入浴	班活 動	振 返 り	就 寝
---	---	---	-------------------------------	---	---	-------------------------------	----	---------	-------------	--------

【8月24日(日)】

起	つ	朝	整理	ふりかえり	合い愛	閉塾式	・ボランティア反省会			
---	---	---	----	-------	-----	-----	------------	--	--	--

「就労体験」をテーマとした5泊6日の長期キャンプを実施した。さらに、毎日の班活動や創作活動を通して、自立に向けて必要な要素である「自己選択」や「自己決定」、「折り合いをつける」など、判断力の育成を図った。

イ 主な活動状況

<ささぐりハイキング>

活動の概要

- ハイキングの活動を通して、本来の目的である職場実習先までの通勤経路の確認及び予行練習を行う。

参加者の様子

- 翌日から始まる実習に対する不安からか、実習先を訪れた時には緊張した様子が見られた。

配慮事項・支援体制

- 遠方への通勤には公共の交通機関も利用させ、昇降の仕方なども理解させた。

<職場体験事前学習>

活動の概要

- 職場実習における一人一人のめあてを明確に持たせること、挨拶の仕方など基本的な人との接し方を身に付けさせること、職場ごとに実習のスケジュールを把握させることをねらいとして学習する。



参加者の様子

- ・名刺の渡し方や挨拶の仕方を、職員や他の参加者を相手に何度も繰り返しながら練習していた。

配慮事項・支援体制

- ・挨拶の仕方などは良い例、悪い例をロールプレイで示し理解させるようにした。
- ・職場ごとに引率者との打ち合わせ時間を確保し、仕事内容や通勤の仕方などを確認させた。

<職場実習>

活動の概要

- ・スーパー・マーケットやホームセンター、老人保健施設、図書館など、篠栗町を中心に近隣10ヶ所の事業所で3日間の実習を行う。



参加者の様子

- ・初日は参加者も事業所の方も戸惑いがあったようだが、3日目には仕事にも慣れ、打ち解けた雰囲気も見られるようになった。

配慮事項・支援体制

- ・事前にとった希望調査と第1回のキャンプの様子をもとに実習先を決定した。
- ・事業所ごとに職員やボランティアを配置して参加者の様子等をこまめに伝達させながら、何かあればその都度迅速に対応していった。
- ・実習終了後は、受入先事業所と担当者からの評価を整理し保護者に伝えた。

<班プラン>

活動の概要

- ・夜の班活動の時間において、班毎に計画を立て主体的にレクリエーションなどの活動を行う。

参加者の様子

- ・一人一人やりたいことが違う状況の中で、班員や他の班と折り合いをつけながら活動を決定していった。

配慮事項・支援体制

- ・6種類の活動を準備しておき、その中から班で選択させていった。
- ・初日に4日間の計画を立てさせ表にまとめて掲示したり、活動の仕方を絵や図で示したりすることで、スムーズに活動に入れるようにした。

(3) 第3回「チャレンジキャンプ」

参加者	事業対象者	44名(うち保護者22名)
	ボランティア	14名

ア 全体の計画

【11月7日（金）】				受付	開塾式	【事前学習】 ～自分の役割を知ろう～		入浴	就寝
・ボランティア事前研修 ・準備									
起床	つどい	朝食	【会場準備】 ～「ゆずフェスティバル」の準備をしよう～	昼食	【オープニングコンサート】	【ゆずフェスティバルでボランティア体験】	夕入食浴	振り返り	シバ アナ タル
起床	つどい	朝食	整理	ふりかえり	合い愛発表会	閉塾式	・ボランティア反省会		
【11月9日（日）】 保護者座談会									

「これまでのキャンプの経験を生かして、今度は人のお世話をする仕事にチャレンジしよう！」とまずは参加者になげかけた。そして、「ボランティア体験」をテーマに当センターの施設開放事業「ゆずフェスティバル」の体験活動ブースにおいて、受付や活動補助などスタッフの仕事を体験した。

イ 主な活動状況

<ゆずフェスティバルでボランティア体験>

活動の概要

- ・前日の事前学習で仕事内容や役割の確認をし、
当日は会場の準備や各ブースのスタッフとしての仕事を行う。

参加者の様子



- ・参加者ではなくスタッフであるという意識を持ち積極的に活動していた。人の役に立てたという満足感が参加者の表情からうかがえた。

配慮事項・支援体制

- ・仕事内容を理解させる際は、具体的な動きや流れを実際に示しながら行うようにした。
- ・来所者に対しては、きちんとした言葉遣いや態度で接するよう隨時指導した。

<ふりかえり・合い愛発表会>

活動の概要

- ・全4回を通して、キャンプの最終日に「ふりかえり」と「合い愛発表会」という活動を行った。「ふりかえり」では、一人一人が書いた感想を模造紙に貼つて班毎に壁新聞を作り、それをみんなの前で発表する場として「合い愛発表会」を位置付けた。

参加者の様子

- ・回を重ねるごとに発表にも慣れ、自分たちなりに工夫した発表をしようとする姿も見られるようになった。

配慮事項・支援体制

- ・書いた感想をコピーしておき、発表のときの原稿としても使えるようにした。
- ・良い発声や表現などについては、積極的に褒めるようにした。

(4) 第4回「メモリアルキャンプ」

参加者	事業対象者	40名(うち保護者20名)
	ボランティア	15名

ア 全体の計画

【12月13日(土)】		
・ボランティア事前研修 ・準備	受付 開塾式	【クッキングパーティー】 入浴
【クロスレインボーコンサート】 就寝		
【12月14日(日)】		
起床 つどい 朝食 整理	【親子でクリスマスリース作り】 昼食	ふりかえり 保護者座談会 合い愛発表会 閉塾式 ・ボランティア 反省会

最後のキャンプとして、「思い出づくり」をテーマとしながら調理や創作などの体験活動を行った。活動を通じて、参加者同士や同年代のボランティアスタッフ、保護者との交流を深めた。



イ 主な活動状況

< クッキングパーティー・クリスマスリース作り >

活動の概要

- 「クッキングパーティー」では、簡単な調理法でできる「パエリア」「ケーキ」「ホットドック」「野菜スープ」の各メニューを班毎に割り当て、作ったものを持ち寄って会食する。「クリスマスリース作り」では、木の実や葉など様々な自然の素材を準備しておき、自由な発想で暖かみのある作品が作れるようとする。

参加者の様子

- どの料理においても進んで関わろうとする態度が見られ、味のほうも好評であった。どちらも、楽しい雰囲気で活動を行うことができた。

配慮事項・支援体制

- 5名程度の班に3名のボランティアを配置し、火気や刃物などの使用について安全面に配慮した。
- 保護者にも参加を呼びかけ、活動の様子を見てもらった。

< 保護者座談会 >

活動の概要

- 知的障害者の就労においては保護者の積極的な支援が不可欠であることから、毎回最終日に保護者座談会を実施した。家庭での悩みや将来に向けての不安などを交流するとともに、講師によるアドバイスや就労に向けての情報提供などを行った。



参加者の様子

- 回を重ねるごとに、活発に質問や意見が出されるようになった。

4 参加者の声

(1) 障害のある生徒

私は和き合い愛塾に来ました。バーベキューを作ったりしました。はじめてのボランティア体けんをしました。たくさんの友達を作ることができてよかったです。クッキングパーティーでみんなで協力して作ることができました。ホームワイドで仕事をしました。とってもつかれたけど楽しかったです。

ぼくがいんしょに残っているのは、しょくば体験とゆずフェスティバルです。しょくば体験は、いいけいけんになってよかったです。次に、ゆずフェスティバルはキャンドル作りをしました。楽しかったです。

私はおしばりたたみをいっしょにけんめいにがんばりました。私はホットドックのパン作りをいっしょにけんめいにいねいにやりました。私はたくさんの友だちや先生にあえてとてもうれしかったです。

特によかったのは、第2回のグリートワークキャンプの実習でした。あと心にのこったのはバーベキューです。特に楽しかったのは、ゆずフェスティバルが楽しかったです。3回目のキャンプまで班長をしていました。ほとんどバツグンの思い出ができました。本当によかったです。

目標は、いろいろな仕事をしたいのが目標です。これからも、あきらめずに一生懸命に仕事をしたいです。先輩として新1年生に分からぬ所があつたら教えてあげること、次に来る時はけんかがないように先輩として教えてあげたいです。

(2) 保護者

4回とも内容が充実していて、家庭や学校では出来ない体験をさせていただいて、親子共々嬉しく思っています。特に職場実習では、学校以外でも出来るという事と、「職場実習状況報告書」をいただき、とても参考になりました。それと、「ゆずフェスティバル」でのボランティア体験も、人の役に立てる喜びを感じられて、自信へのつながりになったように思います。このような場が少なくなっていく中、来年もぜひ「和き合い愛塾」をお願いしたいと思います。

最後のみんなの発表は、どの子も自信を持って自分の考えをみんなに伝えようとするメッセージがこめられ、1回目に比べて進歩のあとが見られました。みんなと会えるのをとても楽しみに、このキャンプを指折り数えて待っていましたので、友達の中で育っているなと感じられるキャンプだったと思います。

回を重ねていく事により、「楽しかった」の一言から「 をした」など内容を少し話してくれたりと会話が出来たようにも感じました。親のもとを離れて生活をする事で子どもも親も成長をしていくのかなとも感じました。

座談会の時に、保護者の色々な悩みや考えが聞けて、これから共に考え、進んでいかなければいけないことを感じました。

保護者との懇談会もとられていて毎回勉強になりました。ただ、やはり同じ学校の保護者と話すことが多くなり、他の学校の様子や情報を聞くことが少ないので、小グループに分けて懇談し、それを発表する形での時間も持てたらと思います。

(3) ボランティア

恥ずかしがらず、自分のしたいこと、言いたいことをちゃんと発表できる、これは自分にはないものでとても感銘を受けました。でも、たまに何がしたいのか分かりにくいことがあって、その時はどうしていいのか分かりませんでした。

初めて参加したにも関わらず、全員がフレンドリーに話しかけてくれたので嬉しかったです。全体的には良かったと思いますが、私たちスタッフが、スタッフ同士で活動てしまっているというのは反省点です。

人それぞれにコミュニケーションの仕方が違い、最初は戸惑つてしましましたが、よく考えてみると、そのほとんどが相手に「ふれる」ということだったような気がします。

集中しきれない子にどのように接したらいいのか分かりませんでした。回数を重ねるごとに、塾生一人一人が大きく成長していました。人のためにも、積極的に自分から行動していました。

自主性と好奇心に富んでいて、純粋に楽しんでくれました。その姿がすごくきれいできらきらしていました。

みんな助け合い支え合えることができるようになった事にビックリ！来年も来ます。

5 成果と課題

(1) 成果

段階的なプログラムを組んだことや各回の活動と生活の流れをパターン化したことにより、参加者が見通しを持って行動しスムーズに活動に入ることができた。

職場実習において、昨年度は半日のみのだった実習を3日間に延長することで、仕事内容の習得が図れ、「仕事ができた」という自信につながった。また、各事業所の担当者と事前打合せを綿密に行ったり、事業所ごとに担当職員を配置し連絡調整を行ったことで、共通理解や連携の深まりにつながった。

同年代のボランティアが数日間、または継続的に参加者に関わっていく中で、知的障害者への理解が深まっていく様子が見られた。事後アンケートにも、自分自身の変化や成長にふれる感想が多く書かれていた。

(2) 課題

参加者が通う学校には毎回案内を配布し極力連絡もとるようにしたが、さらに学校と連携した事業を構築していくためには、参加者の様子をより具体的に伝える手立てを取る必要がある。

保護者のアンケートでは、多様な情報提供や保護者間の交流の場を望む声が多く見られた。保護者座談会の運営の見直しや保護者も積極的に参加できる活動を取り入れる必要がある。

ねらいを持って体験活動を行ったが、活動そのものは単発的であった。シリーズものの利点を生かし継続的な体験活動の導入なども検討する必要がある。